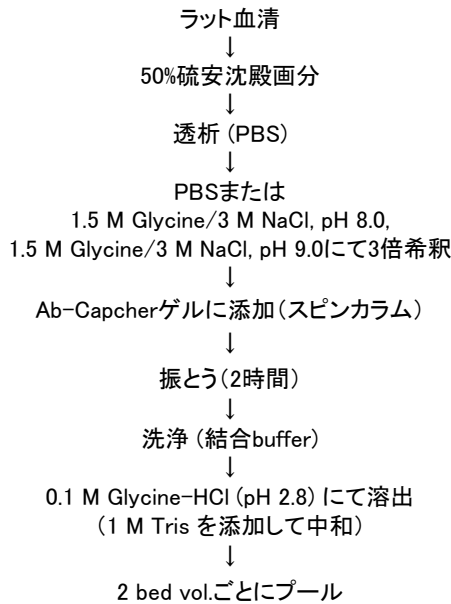
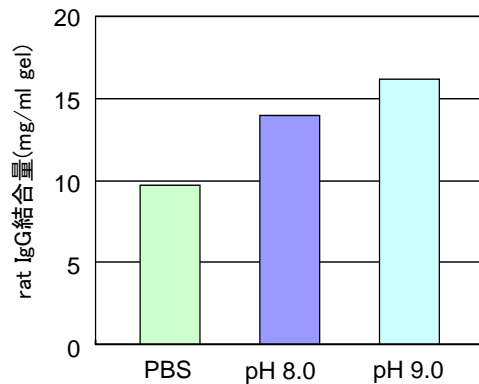


# Ab-Capcher™ を用いたラットIgG精製における 結合buffer pHの影響

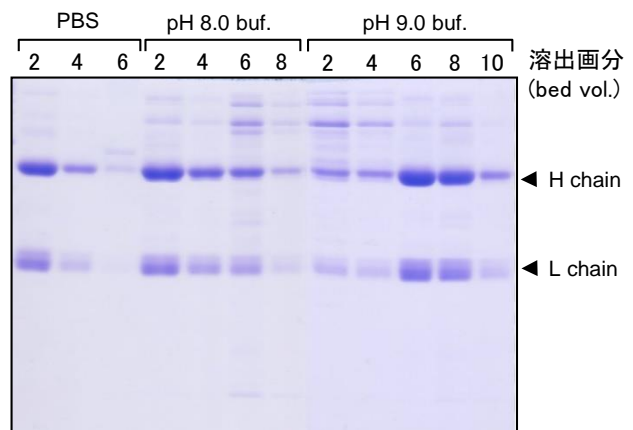
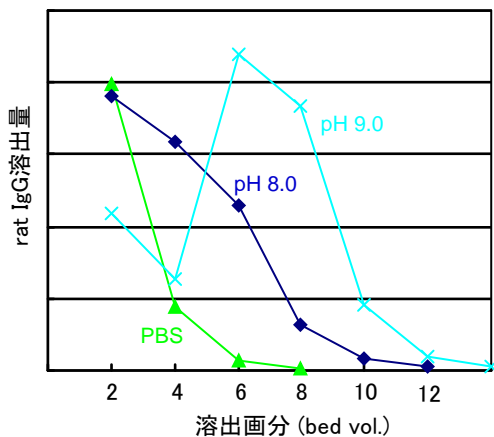
## 精製の流れ



## ラット血清IgG結合量



## IgG溶出パターンの分析



サンプル量: 2  $\mu$ l ゲル: 12.5% 染色: CBB

3種類の pH 条件でラット血清50%硫酸画分を希釈し、Ab-Capcher に結合させた。溶出後に、各画分の蛋白量ならびに SDS-PAGE による純度チェックを行ったところ、結合buffer の pH を上げるによりラット血清IgGの収量は増大するが、同時に夾雑物も増加することがわかった。しかしながら、溶出画分のIgG高含有画分をプールすることで、高純度のラットIgGを効率よく精製できることがわかった。PBSでは4 bed vol.までをプールした。pH 8 では6 bed vol 画分に夾雑物が溶出することから、PBS同様に4 bed vol. までをプールした。pH 9 の場合は、4 bed vol. までに夾雑物が溶出することから、6 と 8 bed vol 画分をプールした。これにより、pH 9 ではPBSの1.7倍に相当する 16.1 mg/ml gel のラット IgG を精製することができた。

## プロテノバ株式会社

〒769-2604

香川県東かがわ市西村1488番地1

TEL 0879-49-0702 / FAX 0879-49-0703

ホームページ <http://protenova.com>